

気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業を定期的に紹介します。

中山間の活動組織に対する研修会を開催しました。

(気仙沼地方振興事務所農業農村整備部)

令和元年12月24日(火)に「令和元年度宮城県中山間地域等直接支払協定活動支援研修会」をはまなすの館で開催しました。今回の研修は第4期中山間地域等直接支払交付金事業に取り組んでいる組織の第5期への継続促進、管内で課題となっている鳥獣害対策や広域連携の事例紹介を目的として行われ、気仙沼市、南三陸町、登米市から約70名の方が参加しました。

研修会では「鳥獣害対策について」と題して合同会社東北野生動物保護管理センターの鈴木淳氏から、「現代農業発！『魅力がいっぱい中山間地アイデア集』」と題して一般社団法人農山漁村文化協会の橋本康範氏から講演をいただいた他、農地維持活動の広域連携の事例発表が行われました。

研修終了後、参加した方々に向けてアンケートを実施した結果、大変参考になったとの御感想を多くいただきました。



会場には約70名の参加者



講演を行う橋本氏

集落ぐるみで鳥獣被害対策 (気仙沼地方振興事務所農業振興部)

県内の野生鳥獣による農作物被害は、東日本大震災以降年々増加傾向にあり、気仙沼市においては平成30年度の被害額が982万円となっています。そこで、ニホンジカ等による農作物への被害を防止するため、八瀬地区をモデル地区に位置づけ「集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業」を展開し、地区全戸を対象とした講習会2回と集落点検2回の全4回シリーズの勉強会を通して、効果的な被害対策について学びました。

勉強会では、野生鳥獣の生態と被害対策の基本を学んだほか、地域内の電気柵の設置状況等を点検し、課題の整理と今後の対策について議論しました。これまで個々で設置していた電気柵を集落内で協力して設置することや、野生動物の住処となり得る空き家をどうしていくかなど、個人ではなく集落ぐるみでの対策が大切であることを学び、被害軽減に向けた認識を共有することができました。



集合勉強会



集落点検



対策の検討

「気仙沼メンマの商品化を目指して」

(気仙沼地方振興事務所林業振興部)

令和元年度から、県では竹林所有者、生産者等が協力して、幼竹を利用した気仙沼メンマ作りに取り組んでいます。今まで利用されることのなかった幼竹から商品を作ることができれば、竹林の整備とあわせて収入増加などが見込むことができます。今年度は、春から加工手法の検討や試作品作りから始まり、管内飲食店からの評価と試食会の開催、秋には反省会での意見交換と、メンマ作りと商品化へ向けた取組を支援しました。

輸入品がほとんどであるメンマにあって、国産品であることはそれだけでも大きな特色と言えます。需要の大半を占めると予想されるラーメンのメンマとしての商品化は、発酵などの工程が加わるため、今後も試行錯誤が必要ですが、生産者や需要者等との連携を深め、手軽に取り組めて収入を得られることをアピールしながら、放置竹林対策を兼ねた地域特産品づくりを進めていきます。



試食会の様子



味付け、試作したメンマ

「みやぎバットの森植樹祭」 ～未来への夢と希望を育む～

(気仙沼地方振興事務所林業振興部)

令和元年12月7日(土)に南三陸町において「みやぎバットの森植樹祭」が開催されました。この事業は、平成17年にプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が本県に誕生したのを契機に、広葉樹の森づくりと森林に親しむ心を醸成することを目的として、野球文化と緑の文化の末永い隆盛を願い、地域住民や野球スポーツ少年団などとの協働により、バットの原材料となる「アオダモ」を植栽しました。

今回は、南三陸町志津川字天王山地内の町有林において実施、南三陸町長をはじめ、楽天球団、野球スポーツ少年団や地域住民ら130名あまりが参加、スポーツ少年団員は植樹を初めて経験する子どもたちが多く、一本一本心を込めて丁寧に植樹していました。

午後からは、会場を南三陸町総合体育館「ベイサイドアリーナ」に移し、楽天イーグルスアカデミーコーチによる野球教室が行われ、将来のプロ野球選手を夢見る子どもたちは、熱心にアカデミーコーチの指導を受けていました。



一植入魂!



コーチの指導に熱視線

令和元年度農林水産祭天皇杯受賞について

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部)

令和元年11月14日に明治神宮会館（東京都）で開催された「令和元年度第58回農林水産祭式典」において宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会が最高の栄誉である天皇杯を受賞しました。震災を機に過密養殖の状態であったカキ養殖体制から脱却するため、カキの養殖施設台数を3分の1まで減らすことで、カキの品質改善や労働時間の短縮など生産性の向上を実現し、都市部に移住した子弟がUターンするなど後継者の確保に繋がりました。また、平成28年に日本初となる国際養殖認証(ASC)を取得し、環境負荷の低下や持続可能な養殖業の姿を明確に示しました。カキ養殖施設台数の削減という減収になりうるリスクを乗り越え、経営改善と後継者確保に繋げた成果について高く評価されました。



江藤農林水産大臣を囲み
天皇杯受賞者記念撮影



天皇杯を手にする戸倉カキ
部会の皆さん

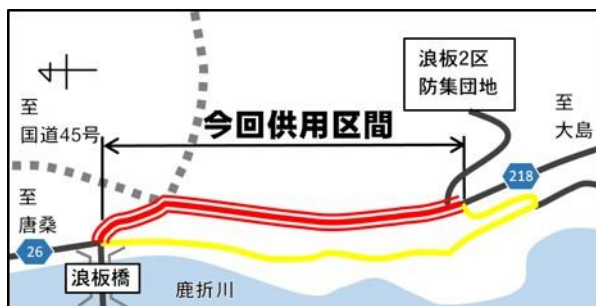
県道大島浪板線の一部を供用開始しました (気仙沼土木事務所)

これまで道路の法面对策を行っていた県道大島浪板線の浪板橋から浪板2区防集団地区間について、工事が完了したため、令和元年12月26日に供用を開始しました。

この区間は旧道を利用し通行していたため、狭窄部や勾配が急な箇所もあり、時々渋滞等も発生し、通行にはご不便をお掛けしていました。

今後は大島方面と行き来する場合は、大型車であってもスムーズな通行が可能となり、渋滞等も緩和されるものと期待されます。

引き続き他の工事につきましても、早期完了に努めて参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



供用開始した区間



供用開始後の様子